



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581
FAX 022-302-3406

年頭のあいさつ

仙台ユネスコ協会 会長 見上一幸

今年の新年は、新型コロナウイルス感染症の広がる中で首都圏に緊急事態宣言が出されるなど、異例の年明けとなりました。このコロナ禍の中で、さまざまな困難に直面しておられる方々に心からお見舞い申し上げます。また、医療関係をはじめ、この困難を乗り越えるため日々献身的にご尽力されておられる皆様に心からの感謝を申し上げます。このコロナ禍が少しでも早く収束するように、私たちは3密を避け、手洗いの励行など慎重な行動をして、少しでも早く穏やかな生活に戻れることを祈りたいと思います。



近年、世界的に内向きの思考があり、いろいろな地域での社会の分断が危惧されておりました。また、SNSなどネット機器の普及により個人に都合の良い偏った情報が集まるとも言われ、社会の分断を進めてように思われます。そしてこの新型コロナウイルスのパンデミックは、ソーシャル・ディスタンスや3密の回避など感染を防ぐ行動により、人と人との間に距離をつくりました。歓談しながらの楽しい食事の機会を諦めるなど、これまでの当たり前の生活を失って、人との繋がりの大切さに気づいた気がします。

今回のパンデミックは、自然破壊、気候変動、都市への人口一極集中など、持続可能な未来に向けて同元であろうと思います。我が国も「2050年温室効果ガス排出量ゼロ」を目指すこととなり、気候変動を止めるための努力が世界中で進められています。持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、仙台ユネスコ協会も市民のレベルで努力したいと思います。現在進めているユネスコ未来共創プラットフォーム事業での海面上昇に直面するキリバス共和国との協働も、文化や教育での交流を通して人と人との繋がりを目指して、さらに進めたいと思います。また、企業のみならず、学校教育や生涯教育に関わるみなさまとも、つながりの輪を広げESDとSDGsの推進に努力したいと思います。

仙台ユネスコ協会は、ユネスコの理念である平和を実現するために、SDGsで言われる「誰一人置き去りにしない」社会を目指して、国連の教育・科学・文化機関であるUNESCOを支援するための民間組織として、今年も皆様とともに取り組んでまいりたいと思います。

◆◆◆ 2020年度 文部科学省委託事業 ◆◆◆

「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

（海外展開を行う草の根のユネスコ活動（再委託））を受託しました



▲キリバスのユネスコスクールの子どもたち

一般社団法人 SDG s プラットフォームから、「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業【海外展開を行う草の根のユネスコ活動】（文部科学省⇒SDG s プラットフォームの再委託）」を受託しました。日本国内のユネスコ活動と国際協力の成果の往還等を促進することを目的に、国内における先進的なユネスコ活動の成果を国際協力の一環として海外で展開する事業です。受託期間は2021年2月28日までですが、3年計画で進める予定です。以下概要です。

1. 2020年度テーマ	「キリバス民間ユネスコ協会設立予備調査プロジェクト」
2. 貢献するSDGs	・4（質の高い教育をみんなに）・11（住み続けられるまちづくりを）・13（気候変動に具体的な対策を） ・14（海の豊かさを守ろう）・16（平和と公正をすべての人に）・17（パートナーシップで目標を達成しよう）
3. 相手国	キリバス共和国 ※（一社）日本キリバス協会 代表ケンタロ・オノ氏が交流の窓口になります
4. 事業内容	(1) キリバス国内における民間ユネスコ活動のニーズ調査（来年以降、キリバスに民間ユネスコ協会を立ち上げる準備） (2) キリバスを切り口にした国内におけるユネスコ活動の活性化 ① 学校/企業/団体でのケンタロ・オノ氏の出前講座・講演活動 ② 学校教育へのSDG s プログラム提案（今年度は小学校6年社会科のプログラム作成中） (3) 仙台ユネスコ協会の活動紹介英文リーフレット作成と広報活動 ※2年目以降、キリバス民間ユネスコ協会立ち上げ支援、小・中・高校間交流、市民含む文化交流等を展開予定

(内藤恵子 記)

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

「SALON&ZOOM講座 第6回～第10回報告」

コロナ禍の中でできる市民のための公益事業として、7月にスタートしたSALON&ZOOM講座は、12月末の段階で10回を数えました。この紙面では、第7回、第8回、第10回の報告をいたします。(第6回、第9回は青年部からの報告になります。)

第7回 2020年10月31日開催

仙臺まちなかシアター という演劇活動 ～withコロナ時代の 「文化活動」とは～

■ 講師 俳優：渡部ギユウ氏



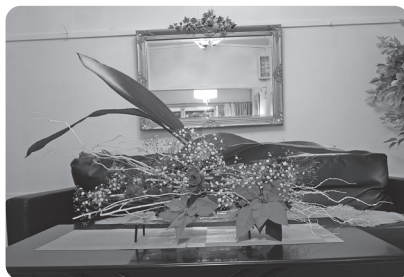
▲リクエストに応じて「朗読」を披露するギユウ氏

ギユウ氏の活動は、俳優・演出家・ナレーター・講師…と多彩。在仙にこだわり、仙台の街中に演劇を根付かせる活動を広げようとしていた矢先のコロナ禍、劇場型ではない発表の場の開拓や朗読劇の可能性などwithコロナ社会での演劇活動の模索や、文化活動のもつ意味について等、時には考え込み、時には饒舌に語る姿が印象的でした。

第8回 2020年11月20日開催

日本文化に 触れる講座

■ 講師 村井えみ子 理事



▲イタリアの国旗の3色(赤・緑・白)を使った作品

代表的な日本文化「生け花」の紹介講座。ベルガモ大学大学院生への「日本文化に触れる講座」として開催しました。流派を越えて流れる日本人の心を伝えたいと、暮らしの中に取り入れられてきた「生活の中の花」から「芸術作品」まで、写真で紹介。大学院生からの質問は、生け花の精神性にも触れる内容で、指導教授から、これまでの講座の中で学生たちの反応が1番よかったとの評価をいただきました。

第10回 2020年12月28日開催

市民が守り育てる 公共施設 ～宮城県美術館の現地存続活動～

■ 講師 フリーライター
西大立目祥子氏



▲貴重な写真をたくさん用意して見せていただきました

「地元学」の視点で、歴史的建造物の保存活動を実践、宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワークの活動では、公共的な場所を維持していくために市民が積極的に関わっていく必要性、行われてきた活動を次代へ伝えていく大切さを痛感したといえます。文化を未来に繋ぐ活動は、ユネスコの活動そのもの。

「ブーツの娘」制作者、佐藤忠良氏にも触れ、仙台ユネスコにとっても貴重なお話でした。

(内藤恵子 記)

・・・これからの行事と催事・・・

■ 「第11回 SALON&ZOOM講座」
須佐涼子会員による「音楽療法」
～リラクソスの時間を共有しませんか～

【日時：2月27日(土)】

■ 2021年度 通常総会開催 【日時：5月下旬予定】

“11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に”
ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった63円ハガキは1枚につき58円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりがひと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

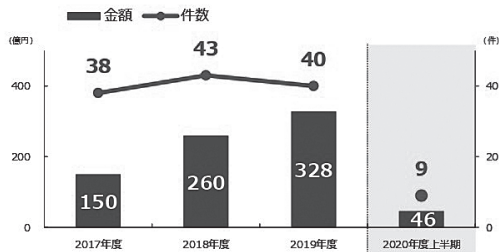
～ ユネスコ会員企業紹介 1 ～

【SDGsの達成に向けた取組み】・・・株式会社七十七銀行

再生可能エネルギー関連融資実行実績

335件/1,395億円

（震災後から2020年9月末までの累計）



■宮城県加美郡での風力発電事業に対するプロジェクトファイナンス契約締結



▲完成イメージ図

当行は、2020年7月に「七十七グループのSDGs宣言」を公表いたしました。これは、1878年の創業より受け継がれる「地域の繁栄を願い、地域社会に奉仕する」という行是の理念と軌を一にする「SDGs（持続可能な開発目標）」の趣旨に賛同したものです。

宣言では、SDGsの17の目標を達成するため、①地域経済の活性化、②地球温暖化・気候変動への対応、③一人ひとりの活躍支援、④ガバナンスの高度化の4つの重点課題を掲げております。また、七十七グループ一体となって、SDGsの達成に向けた取組みを推進していくため、スローガン「もっと、ずっと、地域と共に。」とロゴマークを策定しました。

当行では、SDGsの達成に向けた取組みの一環として、再生可能エネルギー関連への融資を積極的に推進し

ております。太陽光・風力といった再生可能エネルギーは、温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、重要な低炭素の国産エネルギー源として注目されています。主な事例としては、宮城県加美郡で実施される風力発電事業に対して、シンジケート・ローンによるプロジェクトファイナンスを組成し、再生エネルギーの普及に貢献しております。

このほか、グリーンボンドなどのESG投資や地方創生に向けた支援等、さまざまな取組みを実施しております。今後も地域の一員として、SDGsの達成に向けた取組みを推進し、地域の未来を創造し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。



～ ユネスコ会員企業紹介 2 ～

【SDGsへの尚綱学院の取組み】・・・尚綱学院大学

尚綱学院 理事長・学院長

佐々木 公明

尚綱学院の教育目標の一つに「SDGsを実現する人間の養成」があります。大学では、実際の授業、実習などにSDGsに関連付けた学びが取り込まれています。本学の「環境構想学科」では、まさに環境問題の解決方策を学んでいます。学生活動サークル、FROGSは10年前から、自分たちでできる環境活動として、エコキャンパスの推進を行っています。だから尚綱学院大学の建物内の多くの場所に、数種類の分別ボックスがあり、リサイクル活動が活発です。

尚綱学院あげて取り組んでいるSDGs活動に2016年度から始まった、「尚綱の森：里山再生プロジェクト」があります。30年以上前、尚綱学院大学のキャンパスは名取ゆりが丘地区の山を切り開いて、作られました。それまでは、この辺一帯の山は、人間の生活の一部である「里山」でした。

しかし、尚綱学院大学のキャンパスができ、住宅地が開発されるに従い、地域の人々の生活様式も変化し、山と人間の関係はうすれてしまいました。その結果、山は荒れ、日光も当たらないので、樹々は枯れて、倒

れてしまい、山火事の心配も出てきました。大学のキャンパスを取り囲む山は、尚綱学院の「私有財産」です。しかし、その山の景観は近隣の人々からも毎日見え、荒れ放題の山の景観は地域の人々に喜びは与えず、美しい景観だったら人々の心を豊かにします。いわば、この山は尚綱だけのものではなく、地域の人々にも影響を与える「公共財」というべきものです。また近隣の子供たちや市民が、この山に入って散策できたら、この公共財の価値は高まります。

だから、荒れた山を昔のように人が入れる里山化しようと、山をきれいにする取組みを始めています。原則第2土曜日作業をします。最近尚綱の学生、教職員だけでなく、山や森に関心がある多くの市民が参加して、このプロジェクト進めています。尚綱学院創立130周年を迎える、2022年には子供たちや市民が「尚綱の森」を楽しむことができるように、里山を再生するつもりです。

青年部
だより

SALON&ZOOM講座報告

10/23 第6回& 11/27 第9回 「ベルガモ大学大学院生との青年部交流」 「歴代青年部代表とのZOOM交流」

青年部は活動の殆どをZOOMで行っています。活動の様子はホームページで紹介していますが、この紙面では第9回(青年部のベルガモ大学交流としては3回目)の交流を紹介します。

今回のテーマは「子供の頃の遊び」。青年部からは鬼ごっこ、あやとり、たまごっち、折り紙、親ユの方からは羽根つき、百人一首かるたが紹介されました。ベルガモ大学の田中先生は、授業が早く終わると生徒さんと折り紙を折ることがあるとおっしゃっていました。日本の伝統的な遊びを、外国の方が楽しんでいるのを想像して、とっても温かい気持ちになりました。学生さんからは、みんなでできる簡単な遊びや、イタリアのボードゲームなど、様々な遊びを紹介していただきました。日本と似ている遊びがあるなど、面白い発見もありました。

どの遊びも楽しそうでした。遊んでみたいくなりましたが、私が特に興味を持ったのは「Nascondino(ナスコンディーノ)」というイタリアのかくれんぼです。イタリアではかくれんぼの国際大会が行われていると聞き、とても驚きました。

学生さんは日本語がとてもお上手で、私自身、自分が普段話している日本語が本当に正しい日本語なのか考えさせられました。

今年度は例年のような活動ができませんでしたが、こうして外国の方とネット上で関わったことを通し、コロナの状況下でも物事を別の視点から見ると、新しい出会いなどのプラスな一面が隠されているのだなと思いました。

(吉田彩音 記)



▲ 吉田さんが興味を持った「ナスコンディーノ」



▲ 歴代青年部とのZOOM交流。

第23回 ユネスコ子ども絵画展



▲ 受賞2作品(県知事賞)

今年度は、コロナ下学校が休校という事態から始まりました。子ども絵画展についても、実施をどうするかと6月初旬に検討会を開くことから始まりました。他の行事が

次々と中止になってゆく中、例年とは違いいろいろと制約はありますが、開催することに決定しました。

作品は小学生104点・中学生34点と例年より少なかったですが、素晴らしい作品が集まりました。

11月には審査会を行い、入賞作品を選び、1月19日から東北電力アクアホールで、応募作品すべてを展示する予定で、準備も整い開催を待つばかりとなっていました。ご承知のように全国的にコロナウイルスの感染が拡大しつつあり、緊急事態宣言が出され、宮城県でも感染者が日に日に増加している現状では絵画展の展示はやむを得ず中止せざるを得ませんでした。展示することができなかったことはとても残念ですが、今年も子どもたちの力強い作品に出会えたことは幸いでした。

今後ホームページなどで作品の発表を考えています。

(原一代 記)

30年以上続いている 中国語講座



市民公開講座として開講した中国語講座は今年で34年目を迎えました。

土曜日(月3回)午後1時から5時までの4時間、四季折々の話題や歴史・文化や故事を織り交ぜながら授業を進めますので、毎回新鮮な知見に接することができます。最近では中国ネットに次々と現れる「新語」の由来や意味の解説もあり更にバラエティーに富んだ内容になっています。

講師の屈先生は経験も豊富で、受講者のレベルに合わせて授業を進めますので、初心者でも安心して参加できます。

皆さんも一緒に楽しく中国語を勉強しませんか?お気軽に見学においでください。(國分公正 記)

92歳のユネスコの思い



▲ 原畑さま

「五十嵐勝治先生への追慕から ユネスコ協会の会員に」

事務局長をしていた五十嵐先生は、『25年のあゆみ』や世界大会を迎えるときに作った「仙台ユネスコ運動のあゆみ」の編集に携わっている。前者を踏まえて作成した後者は、民間ユネスコ協会の創設以来の動きがわかる名著だ。回想や座談会の記事から、先人達が民間初の仙台ユネスコ協力会を発足させた心情や行動が端的にわかる。準備委員の面々からは県民一丸となっていた熱気が伝わってくる。戦時中生活綴方運動で特高に検挙された体験をもつ先生が、定年後をユネスコ活動の推進にかけている。戦争を体験した私は、協会会員になり、けじめをつけたいと思った。(原畑典三 記)

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口)年会費	20,000円
個人会員(一口)年会費	5,000円
青年部会員(一口)年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	93
個人会員	170
青年部会員	18
合計	281

(2020年12月末現在)

【編集後記】 仙台ユネスコ会報465号をお届けします。

10月から1月までの活動報告をまとめました。サロン&ズーム講座が引き続き好評です。また、ユネスコ会員企業紹介も連載シリーズとなりました。仙台ユネスコ協会は一人ひとりが思いやりの活動をしています。お仲間に加わって一緒に活動しませんか?

(仙台ユネスコ会報編集長 小泉 知加子)